

Bluff Archives Monthly News

2018年12月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

山手資料館「ジャパン・パンチ」コレクション

山手資料館は昭和 52 年（1977）に、株式会社勝烈庵が開館した私設資料館で、展示内容は取締役会長本多正道氏が収集した文明開化期の横浜、特に山手居留地を中心とした歴史資料である。その中でもチャールズ・ワーグマン発行の「ジャパン・パンチ」コレクションは貴重であり、昭和 52 年発行の『勝烈庵五十年史』から、その資料紹介を拾ってみたい。

・・・チャールズ・ワーグマンは、「イラストテッド・ロンドンニュース」の記者として、文久元年（1861）に長崎へ来て一週間滞在、その三月二十七日横浜に到着している。江戸高輪の英国公使館に滞留中、東漸寺事変にあい、そのとき浪士の乱入格闘を目撃してその記憶を油絵にした。それが有名な「浪士乱入図」である。

横浜では居留地の海岸中通りに住んでいたことが、「高橋由一履歴」でわかる。また山手一〇三番にも居たことがあって、そのことは「明治初期洋画壇回顧」に出ているようで、その地番はちょうど資料館の裏手にあたる場所である。ワーグマンは日本洋画の基礎をひらいた恩人ともいふべきで、明治初期洋画に名を残した五姓田義松、高橋由一、山本芳翠、小林清親などを指導した。文久二年から明治二十年の間、「ジャパン・パンチ」を発行した。これはイギリスの週刊誌「パンチ」に由来するもので、月一回二百部程度印刷、はじめは木版であったが、後石版刷りとなった。日本漫画史の初頭を飾るものであるが、そのころの日本人の生活、風俗を漫画の手法で描いて、一種の社会諷刺の作品となっている。資料館にはその一五〇点が保存しており、その全容を「パンチ絵展」として展示した。（注：昭和 44 年（1969）2 月～48 年（1973）2 月、毎年山手十番館にて開催）

ワーグマンは、明治二十四年二月八日、五十七歳で亡くなった。墓は外人墓地にあって、毎年忌日には追慕祭が行われる。・・・

口伝によると、資料館の「ジャパン・パンチ」コレクションは、最初、彫刻家井上信道氏が反町の古本屋で見つけたが、それを本多氏に紹介し、氏が購入したとのことである。その全容は、神奈川県立歴史博物館が 2011 年に開催した特別展「ワーグマンが見た海」図録に掲載されている。ちなみに同館のキャラクターは「ジャパン・パンチ」に描かれたワーグマン本人である。



「ジャパン・パンチ」1862年7月創刊号表紙

ブラフ・ディレクトリによるとワーグマンは 1876～1887 年まで山手 102 番地に掲載され、外国人墓地（16 区）に眠っている。（1891 年没）永らく命日の 2 月 8 日に「パンチ・ハナ祭」もしくは「ワーグマン祭」として、資料館はじめ関係者が集ってきた。近年は休止中だが、有志で当日墓前に献花している。（O）

<参考文献>

『勝烈庵五十年史』株式会社勝烈庵発行 1977 年

『回想・本多正道』株式会社勝烈庵発行 1978 年

『特別展 ワーグマンが見た海 図録』神奈川県立歴史博物館発行 2011 年

『横浜外国人墓地に眠る人々』斎藤多喜夫著有隣堂発行 2012 年